

令和3年度「わか杉っ子！育ちと学びステップアップ事業」実績報告書(にかほ市)

1 市の概要(人口23,644人)※令和3年4月1日現在

就学前教育・保育施設数、小学校数(令和3年4月1日現在)						
幼稚園	うち、幼稚園型 認定こども園	幼保連携型 認定こども園	保育所	うち、保育所型 認定こども園	地方裁量型 認定こども園	小学校
0園	0園	4園	5か所	0園	0園	4校

その他:なし

2 教育・保育の現状と課題

市の教育・保育の課題
(1) 各園の特色・特長を把握し、行政との信頼関係を密にしながら保育の質の向上に繋げる支援体制を構築する (2) 教育・保育アドバイザーの支援のもと、保育者が抱える課題等の改善を図り、意欲の向上に繋げる

3 事業計画の概要(加除修正等、変更がある場合修正)

目的
(1) 就学前教育が及ぼす認知能力・非認知能力の育成を認識し、行政、保育者、保護者、教育者が連携し、親の経済状況による教育を受ける機会の格差が生じない環境の構築を図る (2) 「子ども・子育てに寄り添うまち」として各保育施設、教育施設を核とした、地域全体での子育て支援体制の充実を図る (3) 幼児教育保育の質の向上を図るため、連携協定先の高等教育機関等の助言を受けながら、各保育園・認定こども園の特色を生かした保育の実現を進め、地域への愛着が高い子どもを育てる
主な内容
○市が目指す保育の在り方の共有と実践のための体制づくり (1) 部局間連携による教育・保育推進体制の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・教育・保育アドバイザーを子育て支援課に配置 ・教育・保育アドバイザーの役割、事業の周知 ・教育委員会との事業打合せ、協議 (2) 教育保育アドバイザーの配置・育成など体制の充実 <ul style="list-style-type: none"> 教育・保育アドバイザーが市内各保育所・認定こども園を定期的に巡回し、園の運営等について助言等を実施 <ul style="list-style-type: none"> ・教育・保育アドバイザーの役割・活動周知 ・園内の職員間での円滑な情報共有について ・保育士と保護者との関りについて ・職場のコミュニケーション、人間関係について ・対応が難しい子どもとその親との関りについて ・障害児とその親との関り、指導について ・虐待等の早期発見、防止に繋がる情報共有について (3) 専門性向上のための研修、研究支援 <ul style="list-style-type: none"> ・体制活用のための人材育成方針の作成・活用 ・保育の資質向上のための研修等についてニーズ調査を実施し、研修会や公開保育等スキルアップの機会を創出

<ul style="list-style-type: none"> 子どもとの関り、にかほ市が目指す子どもの姿についての認識を共有する園の交流会を開催 	
(4) 幼小接続の推進など、体制の活用	
<ul style="list-style-type: none"> 教育委員会部局との情報共有を密にし、市で進めている幼小連携カリキュラムの実践と強化を図る 教育委員会、教育専門家、市が連携協定を締結した大学等高等専門機関の教授ら研究者と保育士による幼児教育の効果を実践する研究会の開催 	
(5) 県と市の連携を含めた域内全体の質向上を図るための仕組みづくり	
<ul style="list-style-type: none"> 県との連携を強化し、事業の円滑な実施のための助言、指導の共通理解 就学前教育推進協議会、アドバイザー連絡協議会等を通じて、先行する地域の事例等を参考に、取り組み等への助言、指導を活用 	
年度別重点	
令和元年度	
令和2年度	
令和3年度	事業の周知を図り、園との連携体制を構築する。各園の課題の把握に努め、保育環境を向上させるための支援策について検討する。

わか杉っ子！育ちと学びステップアップ事業 事業の概要(にかほ市)

4 令和3年度の具体

目的	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育・保育アドバイザーが各園を定期的に訪問し、各園の取り組みや課題の把握に努める。 2. 事業の周知を図り、行政と園が連携して教育・保育の質の向上に向けた取り組みについて検討する。 3. 小学校就学に向けた連携体制の強化に努める。 	
実施内容	

<p>(1) 「部局間連携による教育・保育推進体制の充実」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援課と学校教育課の連携を強化し、円滑な幼保連携のための情報共有を図る ・小学校の訪問、情報共有により就学までに身に付けるべき資質の向上のための対応について情報共有する <p>令和4年3月22日(水) 平沢小学校、院内小学校 3月25日(金) 金浦小学校、象潟小学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 未就学児童の集団訓練や幼児相談カンファレンス等を通じて、配慮を有する子どもの就学に必要な支援について関連部署において情報を共有している。 ● 各関連部署との情報共有を包括的に検証する機会を持ち、次年度以降の情報の引継ぎ等に役立てるようにしたい。 	
<p>(2) 「教育保育アドバイザーによる園や保育者への充実した支援」</p> <p>幼児教育アドバイザーの配置・育成など体制の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援課に教育保育アドバイザー1名を配置 ・事業の周知を図り、各園との信頼関係構築に努める。定期的な巡回訪問を実施し、各保育園の実情を把握し、適切な助言を行う(各園月1~2回程度を予定) ・家庭児童相談室、ネウボラ(母子保健支援班)、障害児集団訓練事業等との情報共有を図り、配慮が必要な子どもとその親に対して適切な支援を行う(毎月) 	

◇令和3年度アドバイザーによる巡回訪問・指導に関する具体的な目標（にかほ市）

⑥派遣目標 計 21施設/全 21施設 47回	
回	・保育園：私立5園（30回）
教	・幼保連携型認定こども園：私立4園（17回）
訪	・園内研修支援（保育改善、テーマ別、研修方法、研修計画） 5園（15回）
問	・公開保育支援（指導・助言、公開保育研究会の運営・準備） 2園（3回）
内	・個別相談（保育者の面談及び指導等、園の課題解決対応等） 9園（37回）
容	・状況把握（保育の状況観察、園長等への聞き取り調査） 9園（38回）
	・周知活動（広報紙等での取組経過の伝達、事業内容説明） 7園（7回）
	・県と同行（指導方法研修、園の課題共有、指導内容の明確化） 3園（4回）
	・幼小接続（幼小接続に関する調査及び事業等） 2園（2回）
理	・各園を月2回程度訪問し、アドバイザー派遣事業の周知を図るとともに、各園の実情と課題の把握及び課題解決に向けた支援を通じて保育の質の向上を図る。
由	・家庭児童相談室、母子保健支援班との情報共有を密にし、対応が難しい子どもとその親への関り方について園を含めて情報を共有することにより支援の充実を図る。

- 教育・保育アドバイザーの存在を意識し、保育者が主体性を持って課題の提供や目標の設定に協力的だったことは、大きな収穫となった。
- 園の規模や体制により課題や目標に個性が見られた。事業実施初年度であることから、引き続き、各園の環境やニーズ把握に努めながら、市全体で共有できる教育・保育体制の充実に繋げていく必要がある。

初年度の取り組みとして、主に市内保育所・認定こども園にわか杉っ子！事業実施の意義を理解してもらい、アドバイザーとの連携を園の予定に組み入れていくこととした。

コロナ対策として市内の公共施設利用が制限されるなど、園や学校への訪問を控えた期間があったため、予定よりも訪問回数が少なくなっている。次年度以降は不測の事態に備えて、オンラインの活用なども視野に計画的な交流ができる様な協力体制を整えていきたい。

(3)「専門性の向上のための研修の充実」

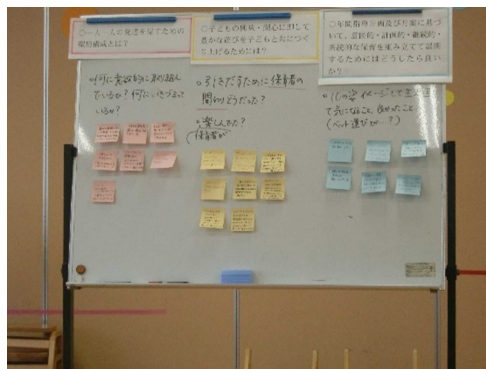
専門性向上のための研修、研究支援

- ・体制活用のための人材育成方針の作成（ポイントをまとめた冊子として配布）
→ アドバイザーの活動内容と新年度の事業計画をまとめたお便りを配布（3月実施）
- ・保育の質向上のため連携協定を結ぶ教育機関（大学等）と連携し、実践的なキャリアアップ研修の充実を図る
→ コロナ禍により実施を見送った。次年度に向けて調整する。
- ・園内リーダーの育成を目的に、情報交換会を行い、課題への対応と問題解決に向けた研修を実施する（1月28日実施のキャリアアップ研修とした）



11月1日（木）園内研修（左）・研修後の意見交換会（勢至保育園）

◇研修後の意見交換会では、「公開保育の意義」や「保育計画のねらい」に沿った保育の在り方について質問や意見が交わされた。次回の訪問に向けて、それぞれの考えを実践できるように取り組むこととした。



（写真左）11月18日（木）ひまわり保育園での園内研修後、カンファレンスの様子

◇お互いの保育を観察し、子どもとの関りや職員間のやり取りに目を向けることができた。次回12月16日実施予定の園内研修では、振り返りの中から出た「職員間の連携」について深掘りをする事で意見がまとまった。

（写真右）11月24日（水）星城こども園。研修後の検討会でボードに課題を張り出して認識の共有を図った。

◇考えを視覚化することで、情報共有がしやすく感じた。情報や思いの「伝え方」が大切だということを学んだ。

- 園内研修に向けた助言や内容の検証について、園訪問に合わせて実践することができた。
- 地域全体で学び合う研修会の実施に向けたニーズを把握し、対象となる保育者が参加しやすい研修会の実施を検討する必要がある

園内研修を通じて、「自園内だけではあったがミニ公開保育を実施しながら保育内容や園内研修、園内研究の大切さを見直す機会となった」「自分事としてよりていねいに子どもを見取るようになった」などの意見が寄せられた。アドバイザーと連携を図ることにより、保育者からの悩みや思いをお互いに話しやすくなった。その中から、次の保育に繋げていく手立てについても細かく話し合うことができ、保育に対しての意識に変化が見られるようになった。

（4）「小学校教育との円滑な接続に向けた研修等の充実」

幼小接続の推進に向けた連携体制の強化

- ・毎年実施している幼小接続のカリキュラムを検証し、より効果的な体制の構築を図るため、関

係部局が連携して情報交換を進める（3月実施）

- ・子育て支援課と学校教育課の連携による情報共有と次年度へ向けた課題の検討会を開催（3月実施）

○ これまでに実施してきた事業への参加・協力体制を強化することで、相互理解を深めることに繋げている。

● 効果的な幼児教育の実践に向けた専門家との研究会について、効果的な実施がなされなかった。

◇アドバイザーが訪問支援する中で、各園より「保育要録の記録方法」「小学校との情報共有」への対応に関する質問や専門的な指導を求める声が多く聞かれた。キャリアアップ研修としての実施を要請したところ、幼保推進課より講師派遣の協力をいただいた。

県内でコロナ感染者数の増加が見られたため、配置等対応に変更があった2園が欠席となり、また、密を回避するためリモートでの開催となったが、各園より担当者と主任の2名が参加した。

演題：保育士キャリアアップ研修「小学校への円滑な接続に向けた研修会」

期日：令和4年1月28日（金）

講師：秋田県教育庁幼保推進課指導班 副主幹兼班長 浅野 直子 先生

参加：7園14人

講義の内容は子どもの見取りを中心に、就学後の子どもの成長に繋がる保育・教育に関する具体的な事例紹介に対して、参加者同士で意見を交わしたり発表したりする内容で、リモートではあったが、参加者が積極的に関わることができた。参加者からは、「要録の記録について要望したが、小学校教育との円滑な接続についても具体的に話を聞くことができた」「グループでの討議・演習も効果的で充実した研修となった」「子どもの主体性を大切にするなど基本的な姿勢について改めて重要性を認識した」などの意見があった。

参加できなかった職員とも情報を共有し、今後の保育に全体のレベルアップに繋げることとした

（5）「県との連携体制の充実」

- ・秋田県幼保推進課との情報共有を密にし、また、先進地の事例等を研究しながら、各園のニーズにあった支援体制づくりを行う（県の同行による各園訪問）
- ・専門家による講演会を実施し、保育者のみならず、保護者や地域の関心を惹く内容とすることで地域全体の意識のボトムアップを図る（11月）
- ・教育・保育アドバイザーの活動を含めた市の子育て支援体制の充実について認知度を高め、地域全体での子育て支援への理解を深める（子ども子育てのまちシティプロモーションとの連携）
- ・県就学前教育推進協議会、アドバイザー連絡協議会等を通じて、先行する地域の事例等を参考に、取り組み等への助言、指導等を活用

○ 県アドバイザー連絡協議会では、他市の取り組みを学ぶことができ参考になった。県アドバイザーからの助言等を励みに引き続き、効果的な事業実施に取り組みたい。

● アドバイザー連絡協議会等での他市のアドバイザーとの交流から参考になる事例を学び、取り入れていく必要がある。

◇にかほ市からの要請訪問に応じて、県アドバイザーによる訪問同行支援を実施

令和3年 6月 8日 明星こども園

10月25日 白百合こども園

◇園からの要請による県のアドバイザー訪問支援に同行して研修

令和3年11月24日 星城こども園

12月 1日 明星こども園

◇わか杉っ子！今年度事業の実施状況の振り返りと次年度事業の実施について幼保推進課指導主事、県アドバイザーより訪問を受け指導

令和3年10月11日 にかほ市役所仁賀保庁舎

要請訪問や訪問支援の同行では、保育士との関り方、助言の方法などを実際の訪問の中で一緒に体験することができて心強く感じた。市の事業の進め方や今後の事業の持ち方等についても具体的な指導を受けることができて参考になった。

5 わか杉っ子！育ちと学びステップアップ事業(R3)に取り組んだ経緯

にかほ市では、令和元年度から国で3歳児以上の保育料を無償化するタイミングで、以前から実施していた保育料の一部補助を拡充し、0歳児からの無償化を実施した。これにより、保育を必要とする家庭が、保護者の経済状況などに影響されることなく就学前教育・保育を受けることができるようになった。同時に、保育者への期待や負担も高まり、モチベーションの維持や課題への取り組み、保護者を含む保育環境への対応など保育の質の維持・向上との両立への課題が寄せられた。保育者の不安や悩みを軽減することで、保育者の能力を日々の保育に集中させ、幼児教育の質の向上を図ることを期待して、教育・保育アドバイザーの配置に至った。

就学前教育推進協議会での実施市の事例報告等では、各市の実情に合わせた取り組みが実施への参考になった。行政の規模や環境は違っても、課題とすること、目標とすることの共通点が見いだせたことは大きな励みとなった。行政と保育現場の橋渡しの立場で現場に寄り添うアドバイザーの役割りに多いに期待し、市全体の教育・保育の質の向上に繋がりたいと考えている。